

タウンミーティング(2021.11.14 オンライン開催) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
1	高校の問題についてお伺いしたいことがございまして、市長もご存知かと思いますが、つくば市内に高校が少ないということで、先日の衆議院選挙の際も筑波大学附属高校というのをおっしゃっていた方がいましたが、そういう点も含めまして、あと何か別の団体も県の方に要望書を出すということで市議会の方もご同意いただいているというお話も聞いているのですが、市長も子育てされている一保護者として、つくば市に高校が少ないことについてどう考えているかということと、市として今後何か対応していただけることがございましたら、教えていただければと思います。	まず私の問題意識としては、何とかしなくちゃいけないということはずっと思っています。TX沿線はもう毎年多数の子育て世代が入ってきていますので、通学の負担を考えても自宅からあまり離れていない高校への進学は必要だと思ってまして、公立高校の配置や規模の適正化っていうのは、当然県に頑張ってもらわなければならないので、実は毎年知事に要望する中の重点事項として、県立高校を何とか作ってくださいてという話をしてきました。 でも知事の考えは結構はっきりしていて、新しいのは作らないっていうのを公言をされているんですけども、ただ結構しつこく話をし続けた成果の一つとして、例えば、今、谷田部工業高校がつくば工科高校という風が変わって、農業高校をあと数年で科学技術に特化した学校にしていくということなんですけれども、その定員はようやく2クラス増やすことなどはできるようになってきました。ただそれでも全く足りていないので、根本的にいろんな形で手を入れる必要があるんだろうと思っています。 例えばそれは今、筑波高校や茎崎高校があるんですが、残念ながら定員が割れてしまったりしているので、そういうのもしかり工科高校のように、おそらく名前も置き換えてイメージを変えていくことになると思うんですが、そういうてこ入れをしていく必要があるだろうと思っています。それから、つくば周辺の高校に行っている子どもがたくさんいるんですが、やはり交通の便が悪いところもありますので、その交通環境を充実させる必要があると思っています。 一方で、つくば市立高校を作って欲しいという声もずっといただいています。が、残念ながらちょっと今、余力はないというのが正直なところなんです。今後、数年で最低でも5校学校を造らなくてはならぬ、さらにまた増えているんですね。今もう建設が始まっているところで、香取台の小学校とか、研究学園の新しい小中学校、みどりのの新しい小中学校、そして旧桜地区のところにもまた小学校を一つ作る予定があるんですけども、そういう状況を考えると本来、県でやってもらべき高校を一つ整備するだけでも数十億単位、かつ、人の手配もしなくちゃいけないので、なかなか厳しいと思っていますので、やはりまず今ある高校を最大限てこ入れをしてもらうということを、県ともいろいろ話をしながら取り組んでるところですし、そこでいわゆる、よく言われる普通の平均的な学力とか、子どもたちの選択肢をもっと増やしていかないといけないだろうと思っていますし、県にもかなり強く、全県的には子どもが減っていてもつくばは増えてるんだから、ちゃんとそこは配慮して欲しいということは、しつこいぐらい会うたびに話をしています。

タウンミーティング(2021.11.14 オンライン開催) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
2	さっきも市長の方からもお話(プレゼンテーション)ありましたけども、過疎地問題として、やはり我々が住んでるところもだんだん高齢化も進んでますし、子どもたちも外に出ていってしまうという状態にあります。環境的には、田んぼもあって住みやすいとこなんですけども、だんだん後の人がいなくなってくる。そうなってくると、今バスも一応今のところ走ってますけども、ほとんど人は乗っていない状態の中で、だんだん置き去りにされていく、そんな感じがしてます。 そういう、どうしても市街地中心になってしまってる部分があるのかなと私自身思ってます。そういう、過疎化、これからどんどん進んでいくんですけども、その対策をさらに強めていただきたいなと思ひまして、今日出させていただきます。	置き去りにはしないというのは、私がとにかくこだわっているところです。私も市長選挙1回落選したとき、その間に各地区歩いて、俺んところは置き去りだよと、ほったらかされてるよという声を、もう本当にすべての箇所で見ました。多くの方がそういう風に思っているというのは、まちとして問題だと思うんですね。今までは、例えば神郡も筑波町の中で重要な位置を占めていたわけですけども、合併をして中心部がつくば駅のあたりに移っちゃいましたので、どうしても地理的には周辺になってしまっ、そして若い人も神郡の方からつくば駅前や研究学園に移ってくるというようなことになってしまったわけです。私個人的な話をすれば、神郡、本当に雰囲気が好きなお祭りなどにも時々お邪魔をしていますけれども、若い世代でも魅力を知っていれば移住したいと思う人はいると思うんですね。ただ、生業がないことには、結局そこから駅まで出てこなくちゃいけないとか、そういうことになっていたらなかなか若い人の移住って進みませんので、やはりそこでどういう形の仕事を作っていくかということに今こだわっています。 実は最近、駅前への移住キャンペーンを市として広報することをやめたんです。駅前にはどうしても人が増えていきますし、その対策をもちろん順次打ってるんですが、やはり周辺市街地に人をどうやって流していけるかと、中から外に人を送り出していけるかということがすごく重要だと思ひまして、今その周辺市街地でも打ち出しているのが、手づくりとか、食べ物もそうですし、飲み物もそうですし、いいものもそうなんですけど、ちょっとした芸術的な取り組みをして、クラフト作品を作ったりして、それで少しでも収入を立てていくとか、あるいはもちろんカフェをやってもいいですし、お酒を作ったり、最近クラフトビールなんていうのもどんどん増えていきますけど、そうやって自分が、サービスのただの受け手側ではなくて、自分が何か新しいものを作って、そこで少しでもまた収入を得て、それが地域の中で循環していくような仕組みを作っていきたいと思ひて、それを作るという意味のクラフトの生活でクラフトライフと勝手に名付けて今取り組んでいます。 周辺市街地の取り組みをR8と言いますが、一番お近くですと北条や小田地区では、地域の皆さんが集まって、自分たちの地域をどうしていくかということを考えています。そこで例えばチャレンジショップという家賃が安く借りられるような支援とかも、市として用意をしていて、そこで生業をして、最近筑波地区にも新しいパン屋さんが一気に3軒もできて、そこでまた人が集まってきましたが、そうやって雇用を生み出していくことを、循環として作っていくことが大事だと思うんですね。そんな、クラフトライフを実践実現をしていくような人たちを、どんどんこの神郡に、本当に魅力的な場所ですので、そこへの移住策なども含めて、取り組んでいきたいと思ひています。真ん中に吸い寄せられるんじゃなくて、外に送り出すという流れを私はまちに作りたいと思ひてるし、今おっしゃったように、置き去りに感じてしまっているのは事実ですからそれは否定できないですけども、できるだ

タウンミーティング(2021.11.14 オンライン開催) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
		けちゃんと市はこっちも見てるんだなと思っていただけるような取り組みを、今市を挙げて一生懸命やっています。

タウンミーティング(2021.11.14 オンライン開催) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
3	認知症って今、皆さん誰にとってもすごく身近な問題になってるんですけども、認知症にもうすでになってる人も、これからなるかもしれない人も、たとえ認知症になっても、自分らしく生きられる、そういうまちなになって欲しいなあと願っているんです。市長さんがさっきおっしゃった、誰にとっても住みやすいまちっていうのは、そういうことです。 私は認知症の当事者と、市民等が作った小さなグループで代表をしているんですけども、皆さんご存知のように、介護保険の前という時期が、実は認知症にとっては非常に長い時期が、10年以上あるかなと言われています。そういう時に、簡単に言うと一番大事なものは、認知症のご本人たちが直接出会って、お互いの不安を話し合ったり、工夫してこんなことやってるよみたいなことを話し合ったりできるのが一番いいんだなっていうことがわかってきました。それで私たちは、当事者もいて楽しい時間を過ごしてきたんですが、3年半たちまして、中だけで楽しくしてるだけじゃ駄目なんじゃないかなっていうことに気が付き始めて、市民の方の中にも多分いらっしゃる不安を感じ始めた方、ひょっとすると、医者に行かなきゃいけないけれども、怖くて行けないなみたいな、そういう方達と出会えるチャンスを求めて、繋がって行って、みんな大丈夫だよ、私たちこんなふうやってるよって、こんなふう暮らせるよ、そういうことがみんなでこう取り組めたらいいなっていうふうに思っています。 市長さんに今日主張したいことは、市の方では高齢福祉課とか、地域包括、それから社協さんも含めていろんな方たちがいろんな角度から活動されているんですけども、行政として認知症に関わって働いてらっしゃる方と同じ方向で活動してる私たち市民が連携できれば、とてもいいんじゃないかなって思うんです。いきなり介護保険の人になってしまうのではなくて、10年以上の長い期間があるわけで、そこに私たちの仲間みたいな、自分が当事者として経験をしている、介護者として経験したそういう人たちと触れ合うことで、認知症と言われてしまっても、楽しく暮らせる時期が長く持てるんじゃないかなっていうふうに思うんです。だけど、それがなかなか、行政と市民の力がうまく、市長さんがおっしゃったような方向にはなっていない、難しい。そこに何があるのかなって考えると、一つは個人情報の問題、それから私たち市民への信頼ですよね。行政の方から見たら、そういう問題もあるかなっていうふうに思います。自分たちでも思うんですけども、でも町田市とか、京都とか仙台とか、行政と繋がってやれているまちもあるので、そういうこともちゃんと一緒に学んで行って、いい形ができるといいなっていうふうに思ってるんですけど、市長さんのご意見を伺いたいです。	本当に認知症の問題は、おそらく、それこそもう本当に世界中が共通の問題として向き合わなくちゃいけない問題ですし、少し前も、つくばの関連の企業が、認知症の治療薬を開発したかもしれないというようなニュースで注目を世界中で浴びるぐらい、非常に大きなテーマだと思っています。 やはり市の大きなスタンスとしては、認知症の人がお住まいの地域で暮らし続けていけることがすごく大事だと思っていますし、今お話がありましたように、介護サービスだけではなくて、やはりその手前であったり、あるいは認知症を発症したとしても、地域の皆さんに理解をしていただいて、見守り支えられる地域づくりって非常に重要だと思っているんですね。いろいろ市でもやってるんですけども、現状大きな課題として感じてるのは、認知症への理解って実はされてるようで、まだまだ本当にされてないなあということは、行政としても感じていて、当事者であったり家族だけじゃなくて、地域の皆さんが認知症というものを正しく理解しながら、今お話あったような交流をしなくちゃいけないという、そういう思いで認知症カフェというものを市内6か所で委託をして行っています。 あるいは、少し関連して認知症のサポーター養成講座というのもやってまして、シミュレーションをして認知症役の方にちょっと歩いてもらうような取り組みとかもやったりしました。取り組みをして、正しく理解をまずしてもらわないと、おそらく次のステップにはいかないだろうなと思っていますし、逆にそういう理解が広まっていけば、自ずといろんな形での繋がりが生まれていくんだろうというので、今市としては、そういうところを何とか注力しながら取り組んでいるというのが現状です。ぜひこれからも、そうやって皆さんのように活躍をしていただければありがたいです。

タウンミーティング(2021.11.14 オンライン開催) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
4	荃崎地区の宝陽台は、スーパーサイエンスシティ候補地区に選定いただき、文化の新しい光を当てていただけるということで非常にうれしく思っております。国、IT庁が組織されて、自治体とのデジタル改革競争プラットフォームというのが設置されて、その活動が始まっていると承知しております。この新しい光の実現の中で、多くはIT先端技術のデータが活用されていくと思うんですが、私ども高年齢者はパソコンとかスマホとか、非常にそういうところに疎い人間がおりまして、サービスの内容の充実はよろしいんですが、それをつなぐ、例えば今回のこういうズームミーティングにあたりまして、本を読んで、何とかこの台に乗れたというような状況がございます。行政サービスの面でも、交通とか医療とか介護とか、そういうインフラの中にITがかなり取り込まれていて、それに関係する私どもの、未熟な技術が本当にうまく乗っていかしてもらえるのかなという心配がございます、私のお願いとしては、市の中にITをきちっと担当されてる方がいらっしゃって、対応していただけたと思うんですけれども、実は地区の方に行きますと、それがなかなかできにくいといえますか、例えば先日も介護インフラのスマートウォッチの活用等で先日説明会がございましたけれども、その中で丁寧に説明していただいて実際に動かし始めました。ところが、やはり繋がらないなあとか、そういうときにどうするのっていうことが結構発生しております。これは各システムになるかと思いますが、やはりそれに関する市のITの担当の方と、地区のそういうことの関連する担当がある程度選任されてきて、そこの中で、そういう連携ができるような組織があっていただければ嬉しいなと思っております。 もう1点、現在タブレットとかスマホとかが配られて、おそらく広報とか防災関係もそれに、だんだん載ってくるのではないかと想像しておるんですけれども、そういうことも連携してまいりますので、ぜひともそういうところを強化していただきたいのと、もう一つは各公民館に今のWebの環境を設置するような、そういう仕組みを是非ともお願いしたいなと思っております。特に、自分の機械がうまく動かないということが発生した場合の、それぞれ逃げ場って言ったらかわいいですけれども、頼るところが必要ではないかなと思っております。ぜひともそういうWeb環境の整備、あるいは故障等した時の運用、そういうような仕組みをお考えいただいた組織作りをしていただけたら嬉しいなと思っております。 特に最近、大手の通信会社や、銀行等でいろんな問題が発生しております。そういうITの中で、いろいろと起こっていることに関して、やはり災害等、そういう時の対策がうまく取れるような、そういうシステムづくりにお力いただければなと思っております。	今のお話は、スーパーシティを進める上でも、おそらく一番大事なことなんだろうと思ってるんですね。お役所が鼻息荒くスーパーシティだとか何か最先端テクノロジーだとか言ったって、いざそこにお住まいの地域の皆さんが何もわかんないよっていうんじゃ、何のためにやってるか本当にわからない、役所の自己満足になってしまいます。それはもうないようにしたいと思っていますし、スーパーシティの説明会でも宝陽台の皆さん、本当にたくさんの方がご参加されて、そこでもこういうお声をいただきました。 市としてはもうそこは必ず対応したいと思ってます。どう対応するかという、いろいろあるんですけれども、民生委員さんのデジタル版のようなものを作るとか、あるいはスマホのサポートをしてくれるスマホサポーターみたいな名前なんでもいいんですけれども。要するに今お話をされたようなトラブルのときとか、あるいは設定の時とかに本当に気軽に聞けるような人をちゃんと確保していく、そして育てていくということ、市として取り組んでいきたいというふうに思ってます。ちょっとしたことが聞けるか聞けないかで、それを1人知ってる人がいれば、情報が共有されるんだねっていうことに繋がっていくと思うんですけど、その基礎的な部分を行政がしっかり責任を持ってまず準備をしたいと思って、それがスマホアドバイザーというようなものとして考えて、1人とか2人じゃなくて、たくさんの方がちょっとした時に気軽に聞けるよというような体制を整えることによって、そういう今のようなご不安がなくなっていくようにしないと、スーパーシティっていうのは進まないというふうに思ってます。 市の交流センターについては、これもWi-Fiを入れていきたいと思って、今いろいろ検討してます。予算もかかるんですけど。予算をかけてでも、地域の皆さんが集まれる、集まるきっかけにする意味でも、交流センターのWi-Fiというのは重要な部分だと思っていますので、来年度予算でどう作れるかってのはあるんですけど、今もうすでに副市長を中心に担当課と検討していますので、何とかこれも実現をしていきたいと思っています。 そういう中で、先ほどの大手キャリアの通信障害っていうのは、ちょっとあの規模になってしまうと、どういことができるかというのは、ちょっと自信ないところもありますけれども、バックアップというか、大事なラインはもちろん行政も別にしたりしてます。いろんなところに影響してくる中で、特に災害等で複数のラインを持ってることも重要だと思っていますので、例えば宝陽台の皆さんのミーティングの時も出ましたが、防災無線などはもっと利用しやすくしていくとかですね、そういう取り組みもあわせながら思ってます。 絶対に多くの方が操作不安だっていうふうに思ってると思うので、不安を少しでも消していけるように、市としてもとにかく丁寧にやっていきたいと思って今準備をしています。

タウンミーティング(2021.11.14 オンライン開催) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
5	今、日本では若者の選挙率の選挙参加率の低さが問題になっていると思うんですけど、学生の立場から、その選挙参加率についての教育の変化をすることを提案させていただきたいなと思って、今日のミーティングに参加させていただきました。 学校の課外活動で、日本の若者の選挙参加率の低さというのをテーマに探究活動をしていて、その中で日本とアメリカの学生と、あと教師の方々に、政治に対する意識調査アンケートを行ったんですね。そうすると、日本とアメリカの学生では、ともに政治への関心が低かったことがわかり、それに対し、教師はアメリカの方がずっと政治関心率が高く、実際に私はアメリカに2年間住んだことがあるんですけど、その時にアメリカでは結構先生方とか友達からいろんな政治の意見を聞く機会が毎日のようにたくさんあって、日本では今、憲法で教員の学校での政治活動が禁止されていて、学校で政治に関するその人の意見を聞けたり、あと自分の意見を言ったりする機会がないじゃないですか。なので、それが政治の興味関心が低いことの一因なのかなというふうに思いました。 今の日本の教育は、内閣っていうのはどういうふうに成り立ってるみたいな政治の仕組みを、形式的に学んでいることしかやっていないと思うんですけど、そうじゃなくて学校の教育活動で、自分がどういう国にしたいのかとかどういうふうな未来を作りたいのかっていうことを議論して、自分の政治に対する考えを深めるような授業をした方が、将来的に若者の政治や選挙参加率が上がるのではないかなというふうに思ったので、まずつくば市から、そういうことを教育活動に取り組み、取り入れていくっていうことを提案をさせていただきたいなというふうに思うんですけど、市長はどういう風にお考えですか。	もう、市長になって欲しいですね、そう思いました。いやもう、この件はずっと課題に感じてます。この間の衆議院選挙の投票率も、全部データで年齢別っていうのが出るんですね。泣けてくるほど若者低いです。1歳刻みで出るんですけど、めちゃくちゃ低い年代とかもあって、それはなぜかという今お話をされたように、もう間違いなく教育だと思ってます。 学校で、政治の話できないんですよ。実は、前教育長が、このことにものすごい怒ってました。教員が政治の話をできなくてどうやって子どもが政治に関心持つんだってね。日本の教育の大きな問題点は、おそらく政治という問題と党派性、政党的な問題を、切り分けることができないので、政党はいろいろありますけど、政治の話をしたらどっかの党派に誘導したと思われる、そしたら怒られる、みたいな恐怖心があるんだと思うんですね。 実際、今回の衆院選でもあったんですね。香川の学校の先生が、特定の政党の映像を授業で流したと。それをけしからんと、それは選挙活動じゃないか、みたいに怒られたりして、どう使うかっていうのも、何かの党派に誘導しないように先生方も本当悩んでるんだと思うんですね。でも私自身は、政治の話をすることは十分可能だと思ってますし、別にいろんな党の話をしたらいいと思ってるんですね。その上で、先生がこれの方がいいよねとか、こっちに投票すべきだとか言っちゃまずいんですけど、今起きていることについて、それを先生が政治のことは口づくむみたいなことは不幸でしかないと思ってるんですね。ですので、何とかこれをして、関心持ってもらいたいというのは、実は今までもいろんな画策をしてきたんですね。やはり基本的には、日々の先生の恐怖心をとっばらわなくちゃいけないと思うんです。 今でも、A党とB党の主張を聞いてどちらの政党を選ぶか考えてやってるんですけど、なんかこうお茶を濁している気がして、もっと生の素材使えばいいじゃんと思うんですね。でもそれを、先生たちは例えば教室で党名とか口に出しちゃいけないと思ってるわけですね。今与党として複数の政党があって、野党も複数ありますから、野党の話してもいいと思うんですよ。ただ、確かに教える際には、結構正しく理解しないと、どこまで発言していいかという線引きは難しいかもしれませんが、そういうことも含めて、つくば市では議論をみんなでもらって対応してもらって、政治に対する考え方もどんどん深めてもらいたいんですね。 教育大綱でも「教えから学び」へと、自分たちで考えて対話をしながらやっていこうということで、批判的精神を大切にしようとかやってるんで、何とかしたいと思ってます。だから今まで言ってることも全部抽象論に終わっているんで、今入口として突破口として考えてるのが、ネット投票なんですね。並木中等で生徒会選挙で、この間高一の子たちにやってもらったんですね。いろいろ考えるんですよ、対話をするわけですね。茗溪学園の方はまたちょっと面白いことをやって、1回まずどの人が生徒会長にいいですかと投票してもらいました。そのあと、

タウンミーティング(2021.11.14 オンライン開催) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
		立ち会い演説会をやってもらって、もう1回投票してもらおう。それで、この聞いたメッセージで投票先が変わるかどうかを検証しようなんていうことを通じて、若い世代が自分が投票してみようとか、話を聞いてみようとかっていうきっかけを増やしていくしかないだろうなと思っています。 すぐには先生が教室で政党についての網羅したディスカッションをしていけるようにはならないと思ってますんで、これもやってもらいたいと思ってますが。それと同時に、選挙の場面として今回生徒会というのを使ってますが、そういう機会をできるだけ通じて、できるだけ僕も並木中等にはその政治の話をしに行っただけですけども。そういうことを積み重ねるしかないなということを思っていますし、同時に先生たちの心理的なハードルを下げるようなことは、教育長を中心にもっと教育局に、いろんな取り組みをしてもらいたいなと思っています。 こだわりの強いので回答長くなっちゃいましたけれども、それぐらい大事なことだと思ってますし、投票率50%とか辛いんですよね。半分の人しか投票に行かないんですから。世代によっては20数パーセントですからね。投票に4人に1人しか投票行けないで、若者の声が反映されるわけないんですよね。みんなが投票して、みんなにとっていい社会を作っていくという、世代間の対立をするんじゃなくて、そんなことを思っています。

タウンミーティング(2021.11.14 オンライン開催) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
6	厚生労働省が子宮頸がんワクチンの接種を推奨に切り替えるというニュースがありまして、これについての質問させていただきたいと思います。現在つくば市では、高校1年までの生徒に対して無料接種クーポンを配布していますが、高2以上の未接種者は、約5万円の接種料を自費で支払わなければなりません。ただ、いまの高2っていうのは、去年からのコロナの拡大などで、病院の行き控えなどもあって、未接種者の子どもも多いのではないかと思います。私の娘も受けられませんでした。いくつかの市町村では、救済措置として、高2以上の未接種者にも無料クーポンを配布していると聞きます。高2以上っていうのは、急がなければワクチンの効果は半減してしまいますので、あまり長い議論を経ずに、早急な救済措置を検討していただきたいと思っているんですけども、この点についてどうぞよろしくお願いいたします。	ようやく国の方針が示されましたので、議会でもいろんな意見があるんですけども、我々は専門家の判断というのが一番重要だと思っていますので、国として専門家の会議で、勧奨に戻ったということについては、非常に重く受けとめています。まだ庁内での議論はこれからなんですけれども、つくば市は、実は全国でもあんまりやってなかったんですが、案内を出すようなことは、おそらく他の自治体よりも積極的にやっていたのかなと思います。救済措置というものがあるかというのは、本当に早急に考えないといけないと思っています。それはあくまでも選択肢を提示するということですので、強制をしたりするものでは当然ないんですけれども、まさにこのあいだの発表を受けて、例えばどこまで見るかとか、そういうことも考えなくちゃいけないというふうに思いました。今の段階で、これをやりますと約束できないのは心苦しいですが、何か方向性が見え次第、いろいろそのうちになると思います。 それから、一方で副反応をすごく心配されてる方もいらっしゃいますので、併せて相談体制というのもある必要があると思います。コロナのワクチンについての自衛隊の調査だと、副反応のうちの9割近くが心因性のものだったって話で、不安があるのは確かですし、ケースは多くなくても重篤なケースがあるのも、これもあらゆるワクチンがそうですから、そういう際の安心できる体制の整備と同時平行的にこれを行っていく必要があるだろうとは思っています。

タウンミーティング(2021.11.14 オンライン開催) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
7	五十嵐市長は、小学生の時はどんな本が好きでしたか。読書量が増えると知識が増えるばかりか、読解力学力アップに繋がると、教育者の方々は口をそろえて読書を進めておられます。それは、ロサンゼルスロサンゼルスの小学校も同じ、あるいはそれ以上に子どもの読書に力を入れていました。我が家の子どもたちも本が好きで、中央図書館をよく利用させていただいております。 そこで、テクノロジー都市つくばに転入当初、図書館の貸し出しシステムにカルチャーショックを受けた点がいくつかございます。電子図書館は、令和4年度導入検討中だそうですね。 とりわけすぐ改善できるのではないかと思うのは、リマインドメールと子どものWebサービス利用です。借りたい本が貸し出し中、または他の図書館にあるときは予約が必要です。子どもは窓口でないとできません。借りている本を延長するのもWebは便利ですし、期限の管理もできます。 それと、これは施設のことなのですが、中央図書館には駐車場がなく、近隣のパーキングに止めることになります。ちょっと返却だけしたいときなど、少々面倒に感じます。実際、建物の東側路上に一時停車している車が結構見られます。そこで、この写真をご覧ください。こちら私がLAで利用していた図書館ですが、地下に駐車場があるほか、建物正面の路上に10分無料の路上パーキングがあります。これは10分すぎると高いレートで駐車料が発生します。つくば駅一般車送迎用駐車場のようイメージです。このようなパーキングが図書館の東側エントランスの余裕あるスペースにできれば便利だと思います。それが難しいようでしたら、先ほど出ましたつくば駅一般車送迎用駐車場に、返却用ブックポストを設置するのはいかがでしょうか。 私が思う、できるだけ低コストで改善できそうなことは、次の3点です。 ・返却期限3日前にリマインドメールを送る。 ・小学生以下の子どもも希望者はWEB利用できる。 ・つくば駅一般車送迎用駐車場に返却用ブックポストを設置する。 図書館の利便性を向上させて、つくば市の未来を担う子どもたちに、スマホやゲームではなく、よりよい多くの図書に接する機会を作る、お力をお貸しくださいますようお願いいたします。 Web利用について、他自治体では貸出ナンバーを持っている人は誰でもできることになっているそうです。あと、小学生をひとくりに利用できないというふうになっているんですけれども、5年生6年生の高学年の生徒児童に対しては、それも心配ないと思いますし、保護者の	もうぐうの音も出ない感じですね。おっしゃる通りだと思うんですね。私も本好きだったので、低学年のころは本当に本をずっと読んでいた感じはしていますね。 まず、電子図書館は来年度、システム入れ替えますので、その時に電子図書館を入れる準備をしています。リマインドメールは、まさに逆になんでそんなことできないんだよっていうなレベルの話だと思いますので、次の新しいシステムの中で、これはぜひ入れたいなというふうに思っています。 それから、お子さんのパスワードのことも、実は前に別の方からも来ていて、子どもはパスワード管理できないからみたいなことだったんですけども、本当にそうかなとちょっと思ってるのと、だとしても例えば大人が代理でだったらできるようになるとかっていうことは、やったらいいんじゃないかなと思っていて、その辺も今度そのシステムの関係とかで、図書館と話し合うときにお話をしてみたいと思います。 駅前の駐車場のポスト、いいですね。あそこ20分無料なので。なんかいろいろ制限あって、あそこ道路とかになってるんで、ちょっと確認しますが、できないものもあるんですよ。あそこのどこかだったら置けるんじゃないかなと思うので。今伺っててすごくいいアイデアだと思いました。ありがとうございます。 なんかね、なんかすごく嫌なのは、小学生はできないみたいな決め付けをしているところが僕はちょっと正直どうかと思っていて、悪いけど下手したら小学生の方がよっぽどちゃんとしてますよみたいな分野もあるわけですね、デジタルだってね。おっしゃる通りだと思うので、自分でちゃんと管理できるとかあるいは保護者が管理するよって言うてるものまで駄目っていうのは、余計なお世話じゃないかなという感じはしますので、いただいた点は、それぞれ本当におっしゃる通りだと思いますので、できるだけやっていきたいと思いますし、ポストとかつくれたらいいですね。本当あそこ渋滞しますからね。

タウンミーティング(2021.11.14 オンライン開催) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
	管理のもとでということで、責任を持ってできるようになるといいと思いました。	

タウンミーティング(2021.11.14 オンライン開催) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
8	つくば市にも電気自動車などの排ガスを排出しない車に対する補助金がありますよね。それは結構なことなんですけど、燃料電池車20万に対して電気自動車2万円で、10倍も差があるんです。なぜこのような金額差があるのかっていうのは、どこにも書いてなかったんで、2年ぐらい前に担当課に聞いてみたんですが、1時間ぐらい話しても何か理由がよくわかんなかったんですね。 私も結論としては、事実上販売してるのはトヨタだけなんで、トヨタに対する補助金なのかなって思って結論づけてあるんですけど、つくばに工場があるわけでもないのになぜ他県企業の製品だけ高額な補助をするのか意味がわからなくてですね。 あと、それ以外にも、この補助金はどのような効果があるかっていう観点で欠如してるんですね。本来は年間走行距離が長くて古い自動車の置き換えに対して補助すべきなのにそういう方向性が特になく、とりあえずもうばらまいて終わりっていうのですし、そもそも法人は対象外なんで、絶対稼ぐために走らなくてはいけないタクシーやバスとか運送会社は対象外になってるんです。 今話した補助金は1例にすぎないんですが、出すならどういった効果が期待できるのかっていうのは数値を算出すべきですし、ばら撒いて終わりなんじゃなくて、必ず何年か経った後、追跡調査すべきなんじゃないかなと思うんです。この手の補助金っていうのは全国どこの自治体もばらまきだけで終わってるんですが、つくばとして他の自治体の模範になるみたいに、走行距離ベースの、補助金に変えられないでしょうか。 あと法人も含めて、年間5000キロしか走らないその辺の買い物するだけの車よりも、5万キロとか10万キロ走る車に置き換えた方が10倍20倍効果あるわけですから、多分他の自治体の補助金、国の補助金もそうなんですが、みんな効果に対する考え方が欠如してるんで、つくばから変えられないかなと思うんですね。 うちも電気自動車2台持ってますけど、法人名義での登録だったんで、補助金はもらってません。現状いろいろな補助金あるんですが、これに限らず、結局金持ちに対する税金カンパにしかになってないですし、特にコロナウイルスに便乗した補助金っていうのがいっぱいあるんですけど、困ってると思えないような人に対しての補助金がたくさんあるんで、税金の無駄遣いになってて、補助金長者みたいな人たちがいっぱい私の周りでも出てきてるんで。酷いんで、もうちょっと何とかなんないのかなと思います。	ばら撒いて終わりっていうのはよくないなあというのは思ってます。国でも今いろいろ議論ありますけれども、その効果をちゃんと考えなくちゃいけないというのもおっしゃる通りなので、市のコロナ対策については、例えば経営者の皆さんに対していろいろ聞き取りをしながら、その後の成果等も含めてフォローはしているんで、本当に必要な人には届いているなところがありますが、プラスして経営により前向きな力を加えるものに関しては、必ずしも苦しくなくても、今後の雇用につながられるようなものに対しては支援をするような形になっていますので、補助金長者とは認識を私はしてないんですけども、全国的にもそういうケースがあることは、通常よりも売上が補助、給付金で助かったなんて話が、事実としてあるのは把握はしています。我々は困ってる人をちゃんと支援したいという中で、本当に細かいところで少しそういうケースがあるのであれば、より細かく見ていかなくちゃいけないと思ってます。 まず、金額が違うことですが、これは市としてはやはり普及させたい車の種類に対して補助金を出すという仕組みで、今電気自動車を2万円にしたのは、もう補助なくても多くの人を買っていくような状況になったからという位置付けです。水素はまだまだそうっていないし、水素ステーションもまだ十分でない中で、ただ環境負荷を考えると一定の価値はあるだろうということで、トヨタに限らず、今いろんな会社が開発を進めていますので、それについては別にトヨタを支援してるつもりはないですね。ただ、国の補助が燃料電池車も昨年度まで30万、つくば市としては30万だったのが、今年度20万に引き下げたんですけど、国としても補助額減額になったりしますが、そういう動きはちょっと詳細に見ながら思ってます。 法人については、ご指摘はごもっともとは思っていますが、この補助金は市民向けの啓発の位置付けでやっていますので、環境負荷軽減と含めて、法人の置き換えを促す施策っていうのは、確かに何らかの必要なんだろうなということをお話を伺いながら思いましたけれども、ある程度主体的に電気等を選んでくれる方向にはなってきたのかなと。それが企業のイメージとしても、あるいは社会的な位置付けとしても、必要なんだという理解は進んできてるのかなと思っていますし、あと法人の場合はグリーンエネルギー系は購入やリース含めて、一般の財団法人があって、そこが窓口で国からの補助があるので、何となく市としては、市民個人向けにという方向になってしまってるんですが、どういう可能性があるかというのをちょっと考えたいなと思いました。 走行距離まで全部算出をしてっていうのも、確かに買うだけ買って全然乗ってないっていうんじゃないかな何のためなのかよくわかんなくなっちゃうってところは確かにあるなと思いますけど、一方でそれなりの台数に交付しているんで、その走行距離を毎年出してください、何キロ以内にならないと返還ですということが、補助金としてできるかっていうのは、法務も含めて話をしないといけないなというこ

タウンミーティング(2021.11.14 オンライン開催) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
		とは感じましたね。宿題いただいたと思ってますのでちょっといろいろ考えたいと思います。

タウンミーティング(2021.11.14 オンライン開催) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
9	SDGsパートナーに属して、それなりに何かしてるという感じなんですけども、この前は何回かワークショップがあつて、コロナになってからは講演会とか、ちょっとしたイベント参加、そういった形が多いんですけども、その中で私は循環型社会をどう作るかというような、ワーキンググループに属しています。それで感じることは、ワークショップで議論してるのは、それで有意義ではあるんですが、つくば市が行政として、例えば再エネ発電事業をどうするか、あるいは今、太陽光発電をいっぱい見かけるんですけども、そういったものをどんなふうビジョンを持って進めていけるかとかですね。それから、生ごみリサイクル、つくば市は都市部と農村部が非常に密接していて、そういう意味では社会的条件が非常にいいんだけど、この利点がまだ全然生かせていない。コンポスターの補助金とか、市民の中では段ボールコンポストの運動とかあるんですけども、それを社会的にどう進めるとか、その点のビジョンをどういうふうにお考えなのか伺いたいと思います。	まず、再エネの事業を自治体でっていうのも実は市内でも何度が検討してもらっていて、私自身もすごく関心があるところですし、例えば市民が出資して、それを発電してる事例っていうのは、いろんな自治体でもあつて、そういう事例もいろいろ調査してもらっています。 今までの市役所的な答弁としては、なかなか経営としてはうまくいってるところが本当に少ない中で、市が直接乗り出すことのコスト感で言えば、かなり割高になってしまつたろうというようなことがありました。ただ、私が最近市内で言ってるのは、幾らかコストが上がるのは仕方ないと。今までより環境負荷をかけないようにするために、今まではそのコストを環境側に転嫁してたから安く済んでたんだけれども、新しいことをしてより環境負荷を下げるんだったら、我々側に負荷が来るのは当然じゃないのという話をしています。 特に生活環境部というところでの議論では、もちろん予算は本当に限られていますので、大切に使うんですけども、ただ予算がないから制限がかかるばかりってのはちょっと違うよねって話をしているところで、その辺りも私個人としては非常に関心が高い分野ですので、引き続き検討はしていきたいと思っています。 コンポスターの話ありましたけれども、そこがまさに「ともに創る」部分のすごくベースとなるんじゃないかと思ってます。実は、段ボールコンポストも無料でキット配布するというのを、一昨日ぐらいまで締め切りでやったんですけども。ポトランドのまちづくりアドバイザーとかにも意見をもらいながら、どういう取り組みをしてるかとか、世界の事例とか日本の事例を調べて、何か当たり前にしていかなくちゃいけないと思ってるんですね。例えば、コンポストで生ごみを堆肥化するという作業をすれば、それが一つの引き金となると思ってるんですね。コンポストを例えば自分でやる人は、おそらくプラごみの分別も丁寧にやるってくれるんじゃないかな、雑がみもちゃんと分けてくれるんじゃないかと。連鎖反応が起きていくんじゃないかと思っていまして、そういう意味で段ボールコンポストも、今年予算なくなっちゃいましたとか言ってたんで、いやいやちょっと待ってくださいって話をしました。 来年なんかもっと予算も、生ごみ処理機も含めてちょっと増やしていこうと思ってるんですけども、そうやって最初は投資してでも市民の活動を促していって、みんながその行動を変えていくようなきっかけを作るのは多分大きな市の仕事だろうと。そういう中で動き出していけば、もう自分でコンポストやってみようとか、こんなことやってみようということに繋がってくるんですけど、まだそのきっかけが作りきれなくて、つくば市環境サポーターという皆さんが、何と9000人もいらっしゃるんですけども、全然あんまりこう、積極的な活動にできていないんですね。9000人も登録してくれたんだたらすごいことですから、こういう皆さんに少しでももう一度動き出して登録してくれた時の気持ちを思い出していただくような、仕掛けも一緒にやっていかなくちゃいけないと思って、そうやって始まっていけば

タウンミーティング(2021.11.14 オンライン開催) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
		当たり前になっていくだろうということを思っています。 一つの選択が、まさに持続可能な選択に繋がっていくような取り組みをした いていうのが1点と、もう一つ環境教育ですね、学校現場で子どもたちが当 たり前にやっていたら、家でなんでお父さんそれごみ箱に捨てちゃうのみたい な話になっていくと思いますので、そういうこともかなり力を入れなくちゃい けないだろうと思ってますし、逆に効果もあるんじゃないかなあと思っています。 最近市報には、「やめよう、ごみ箱へのポイ捨て」みたいな、これ副市長が考 えたんですけど。ごみ箱へのポイ捨てをやめようって、雑がみとかダンボール とかプラとかをごみ箱に入れちゃったら、それはポイ捨てと同じぐらい無駄 で、もったいないことだよということを言っていきたいなというふうに考 えていますので、ぜひSDGsパートナー、今もコロナで活動止まっちゃって ましたが、これから具体的な行動に入っていくタイミングだと思いますので、 いろいろとお力をいただければと思います。

タウンミーティング(2021.11.14 オンライン開催) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
10	①つくばセンター広場のエスカレーターについてお伺いします。エスカレーターの工事費が6700万円もします。そばには15人乗りのエレベーターもあって、こんなものは必要ありません。しかも、1日あたりの維持費が3万円です。こんなものペデとも動線が交錯します。そもそも何のためにこんなものがあるのか。6700万もする危険なものを作って、何が安心の子育てなのかをお聞きしたいです。何の目的でこんなものを作るのか、エスカレーターというのは年間何件も、事故起こしていますし死亡事故も時々起きています。子どもは特に、エスカレーターで足を切ってしまったり、巻き込まれたり、あれは回転していくカッターであって非常に危険なもので、これから人口が増えるセンターにこんな危険なものを6700万で作る理由がわかりません。明確にお答えください。 ②私は広場で通る人に聞くと全員そんなものいらないと言います。子どもたちは階段を通して遊ぶし、15人乗りのエレベーターといったら相当広いです。車椅子も何でも入りますし、ベビーカーを押してる方は、エレベーターで下ります。あんなところにエスカレーターが欲しいって人を一人も聞いたことないですし、あんなところにエスカレーターの入口ができれば、まさに動線が交錯して、交通事故起こしそうになる。自転車が通るときに、どれだけ危険かっていう。何でわざわざ商業施設でも公共交通機関でもないところに、エスカレーターを後からつけるのか。後からつけて、それで事故を起こした時にどうする気なのか、その事故の状況に応じて対処しますとは言ってますけど、そもそも事故が起きるかもしれないものをわざわざ作るっていうのは、私には正気の沙汰とは思いませんので、詳細設計に入っていながらこれから変更するかもしれないっていうこと、本当に可能なんですか。 ③そうですか、でも例えば交流センターも下に下ろすって言ってますけれども、吾妻交流センター利用者は全然知らない。つくば市から来た手紙、メールの返事には、関係部署を通して利用者の意見を聞いてますって書いてあったんですけど、それは嘘八百でして。これから説明会をやるそうですね。ですから、もう何も信頼できないんですが、交流センターの4階にあるから、中にある何もかも下に下ろして、しかも狭くして、まちなかデザインが勝手にいろんなオフィスを作るとか、もう何というか、根本的にこれは見直さなきゃいけないんじゃないかと思うんですが。	①人流をスムーズにしていく中で、エスカレーターを計画はしていますけれども、今のようなご意見を今たくさんいただいています。さっきもちょっと冒頭でお話したんですけども、一つには磯崎先生の意匠を大切にすることというはずっと指示を出し続けていまして、そういう中でこのあいだも議会の委員会で、例えば市民窓口をもっと別の場所に移して、センタービルの奥じゃなくてBiviとかに持ってきたらいいんじゃないかという意見もありました。理由の一つに市民窓口などにもスムーズな動線を作るためにというのがあったんですが、そういうことも総合的に考えて、議会の皆さんとも議論しながら、エスカレーターの設置が本当にそもそも必要なのかというのを、今もう一度議論いただいています。 我々としても、もしそういう変更になっていけばどうなのかとか、そういうシミュレーションをしているところですので、必ずしも私は絶対にエスカレーター作らなくては駄目だと思ってるわけでは全くありません。もちろんエスカレーター作って欲しいというご意見もいただいていますけれども。 ②はい。もちろん、費用に応じて変えるということを私これまでもやっていますので、お役所はこう1回決めちゃうとなんか変えるのが負けたみたいで嫌なんですけど、私は意見を聞いてそうだと思えば変えることに躊躇はありませんので、今できないってことは全然ないんですね。 ③交流センターの説明会もこれからもやりますけれども、ご意見としてはよく分かったんですが、我々はいろんな形で意見を聞いていますので、もちろん交流センターをどうするかということも、議会の皆さんとも議論をしながら進めていることですので、すべてが思い通りのリニューアルにはならないと思いますけれども。

タウンミーティング(2021.11.14 オンライン開催) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
	④私は別に私の思い通りにしろと言っていないんですが、例えば市民説明会を検討しますというけどいつやるのか。私、割と近隣に住んでますが、市民説明会の案内来ないんですけれども。交流センターじゃなくてもですよ、通りかかるんじゃないですか。一般市民や地域住民に対する説明会はないんでしょうか、いつやるんでしょうか。	④ご意見はかなりの形でいただき、議会でも繰り返しご意見いただいている部分で、そこで前回の委員会でもいろいろご要望いただいているものや、今回のアンケートの意見や、今いただいたような皆さんのご意見もたくさんいただいておりますので、それを含めて、プランを修正をして早めに方向性も出して欲しいというお声も議会からもいただいております。いただいたようなご意見ももちろんありますので、繰り返しますが、ご意見通りにはならないかもしれませんが、そこを総合的に判断して、最終的には市の責任で計画を作っていくということなので、そこはぜひご理解をいただければと。
11	最近つくばに引っ越してきて、まちづくりに興味があるのと、共創ということにすごく賛同してるんですけども、今はタウン誌を読むぐらいしかできていなくて、具体的に市にリーチする手段ですとか、具体的なアクションは見えていないんですけれども、私のように外から来たものが、つくばのまちづくりに積極的に関わられる活動の場などというのはあるものなんでしょうか。教えていただければと思います。	SDGsパートナーズという活動がありまして、SDGsパートナーで検索いただくと多分すぐ出てくると思うんですが、これは1回講習のようなものをどこかで受けていただくと、パートナーとして認定されて、かつ、その中でワークショップに分かれて自分の関心がある分野に継続的に関わっていただけるようなもので、ぜひこういうものでご自身の関心分野に近いところ、SDGsの中でもいろいろありますし、まちづくりでもいろいろありますので、そういうものを見ていただけると多分、新しくこられた方の入口としては、まちづくりの仲間をつくるという意味でも非常にいいんじゃないかなということを思います。 それから、研究学園には非常に活発な団体が、ごみ拾いをみんなでやられたりもしていますし、市役所の市民活動課というところに来ていただくと、多少の情報提供はできると思いますので、そんなものも使っていただけるといいかなと思います。ぜひ、本当にそうやって活動していただける方のお気持ちがすごく嬉しくて、活動していくと、今までは批判ばかりでしたが、実際やってみてそのまちづくり、自分で関わる方がよっぽど楽しいんだってことがわかったとこの間も聞いたりして、まさにそういう前向きな気持ちでいろいろ取り組んでいただけるといいなと思っていますので、ぜひよろしくお願いします。

タウンミーティング(2021.11.14 オンライン開催) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
12	つくばに引っ越してきて、もう1年ちょっとですね。農業を5～6年やっていますが、市民農園ができる場所とか、こういう制度があるし、でももうちょっと改善の余地があると思って、五十嵐さんに一度依頼したくて。例えばそういう場所、施設はあるけど、水やりの設備がないとか、トイレがないとか、あとは水やりとか、基礎のところですよ。いくら制度があっても、農業のコアの水やりができなければ何もできないし、あとこの制度の大きな目的は、新しい人が来てやりたいみたいなことですよ。この裏にあるゴールは、農家をやる人が減っているみたいな国の大きな問題につながってるんじゃないですか。このシステムの目的があるので、もうちょっと改善の余地を、ちょっとギャップがあるので、工夫改善したり、あとはやっても夏になったら草取りが大変だから、それは僕みたいに初めてのやり方だと、こういう道具が持っていないとか。でも多くのネットワークあるじゃないですか、やってくれる方とか、道具を売ってくれるとか、こういうサービスを提供するみたいな。そういうネットワークが見つからないし、誰に話せばいいかわからないし、なので、施設を立ち上げるだけじゃなくて、こういうネットワークも、誰のどこにつながれば新しいプロジェクトを、ちゃんと作っていくみたいなことが、もうちょっと楽になるかなと思いますね。 農業だから難しいみたいなイメージを持っている、そのイメージをちょっと楽にして、僕がやっているのは自然の、本当に農薬使わない、良い方法でしかやりたくないの、無農薬で農業やりたい方を結構応援したいなと思ってます。	本当に市としてはもっともっと増やして環境を整えたいなと思ってらるんですね。実は、私今からもう10年以上前ですけども、農場を立ち上げたんですね。それは障害のある人が働く農場でして、障害の人って働くことできるんですけど、なかなか理解されなくて、雇ってもらえないケースがあって、農業はまさに今お話あったように、担い手がいないんですよ。今100人以上の障害のあるスタッフが、僕が立ち上げた農場で働いてくれてるんですけども、市長になってから経営は一切離れてますけれども、実はそこでも市民農園もやっていまして、そこでは、道具とか全部農場側で用意をして、アドバイスもお互いに教えたりとか、ちゃんともちろん教えられる人もいて、というような形でやっていて、コミュニティができていますね。 ただ、必ずしもそういうところばかりではないので、そういう例えば本当の自然農をやるとなると、多分そのコミュニティでまた入っていかなくちゃいけないと思うんですが、そういう情報はある程度、つくば市の農業政策課というところで、そういうことであれば誰さんがいいよとか、こういうのだったら、誰々さんにアドバイスもらえるよとかいうのは、個別にご紹介もできます。ただ、なかなか市役所にはそのために来ないと思いますので、そういう農業のネットワークっていうのも、確かに必要だなと思っていて、市では、逆に農家になりたい人たちのためのネットワーク化をしていて、数十人がこのグループに入ってくれてるんです。若手農家とか、これから新規就農したい人とかは、今グループはちょっと止まっちゃいましたけども、コロナになる前は直接意見交換をしたりして、まずネットワークでの情報がないし、逆に情報があれば、結構みんなの共通してる問題とかって簡単に解決したりすることもあるので、そういう取り組みをしています。ただ、今のちょっとした施設を整備するとか、市民農園も結構程度の差があったりしますし、市民ファーマーのような人たちに、ネットワークっていうのは、確かにちょっと政策的には抜けてるところかなという感じがして、ちょっと皆さんにお任せしちゃってるところがあるなと思いましたので、少なくとも何らかの情報共有の、例えばメーリングリストとかね。そういうこととか、何かちょっと考えてみたいと思います。

タウンミーティング(2021.11.14 オンライン開催) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
13	上郷跡地問題において、陸上競技場を将来作りたいということで、地元としましては、何度か地元説明と役所の方で説明いただいております、その気になって奨励していただけるのであれば皆さん賛成だなということなんですけども、今後どういうふうなプロセスをしていくのか。 また私の方はまちづくりということで、そういう団体がありまして、そういった方たちは、ある程度市長とのコミュニケーションがあって知ってるかと思いますが。我々その他の人は、興味あるんですけども、そういったことは全然ニュースが入ってこない。だからこれから、どういうふうなプロセスで、いつごろを完成させるのか。そういったところをちょっとお聞きしたいなと思って今日は、参加させていただいたわけです。皆様にそういった情報をもう少し、出していただければありがたいなと思っておるんですけども。	おっしゃる通り情報を出すのは大事だと思っています。まず今の状況ですけども、基本構想というのを今年の4月に作って、そのあと説明会等をして、後に第三者の皆さんに大規模事業評価というのを今やっています。 この構想で本当にいいのかと、陸上競技場が本当に市に必要性があるのか、その規模が本当に適正だったんだろうとか、地域の皆さんにとってどうなのみたいなのを、いろんな視点から、大学の先生であったり、弁護士さんであったり、そういう皆さんに評価をしていただいている最中です。ここで皆さんからどういう結論が出るか本当に全くわかりませんけれども、いろいろご意見をいただいて、絶対中止とかって言われちゃうと、ちょっと考えなくちゃいけないんですけども。いただいたご意見を踏まえて、その構想から来年度、具体的な計画を作り、再来年度にどういう建物にするかという設計をして、3年後の令和6年度から工事を始めて、令和8年度には完成したいなと思っています。大規模事業評価の皆さんから本当にご意見をたくさんいただきますので、そこを踏まえてやっていきたいと思っていますが、スケジュールとしてはそういうことで、随時、そういう情報はきちんと皆さんに届くように努力をしたいと思います。

タウンミーティング(2021.11.14 オンライン開催) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
14	つくばセンタービルのエスカレーターをどうするかという問題、大きく中身を変える内容になってましてお金も10億近くかかるものになってます。また、まちづくり会社、つくばまちなかデザインですかね、こういうものも作っているんですね。これまでも私も関心を持って、パブコメとかオープンハウスとかいろいろ見てきてるんですけども、ちょっと中身の情報があまりにも具体性がないもので、パブコメとかやっていて、やっと出てきたなど詳しいものが出てきたなどと思うと、もう詳細設計というか実施設計に入りますっていう状況なんですね。 まちなかデザインにつきましても、出資者の構成なんか見ると、全然公募されてる感じでもないですし、一つの会社が金額を急に減らすとか、まちづくりに関係してる会社じゃないし、市長も友達なのかなとか、すごく気になるところがあり、また、市からいろいろ駐車場とか市のスペースを貸す以上はきちっと適正な対価をちゃんともらっているのかどうか、その会社の経営も成り立つのかとか、非常にわからない状況で、非常に抽象的な情報でも会社が設立されちゃいましたと。議会や市民はちょっと意見出しにくいみたいな状況になってますし、エスカレーターとか、いろんな工事の内容も、もっともっと丁寧に市民への対面での説明会というのがまだ一度もないので、ぜひやっていただいた方がいいのかなと思いつつ、非常に丁寧に、これからもよく意見を聞いて、進めていただく必要があるなと思っております。 あと、学識者の方からもうすでに意見を聞いてるとか、議会といろいろ議論してるってのはわかるんですけど、議論した結果、市民の私みたい普通に社会人してもちょっとこれおかしいぞとか不透明だとか思うので、先生のお話聞いてますとか議会通してますって、ちょっとどうかなと思うので。もうちょっと丁寧に進めていただく必要があるかなと思います。	丁寧に進めることもすごく重要だと思っていて、これはセンタービルに限らず、何か情報を伝えきれていないというのは、あらゆる分野で感じているので、今回かわら版を出したり、あるいはセンタービルに関しては市報を出してみたり、動画をやってみるというふうになってるんですが、なかなか届ききらないなあとというか、それは我々広報をもっといろいろ工夫する必要があるなということは思っています。 センタービル、あるいはまちなかデザインについては、決して勝手にやってるわけではなくて、まちづくり会社作る時も議会でも全会一致で予算いただいたりしていますので、その都度議論してるんですが、どうしてもいろいろなご意見がもちろん後からも出てきますし、後から出てくるのは後から言うなんていうんじゃないくて、それをできるだけ反映していこうということで取り組みは進めています。 そういうプロセスの一環で、今回、市民からの意見募集ということで、市報の一面を使って意見募集をしたりとか、いろんな形を行っていますので、そういうものを含めて、今後も意見を聞かないというよりは、常に意見はいただいていますし、タウンミーティングでももちろんいただきますし、市民の声としてもいただきますし、要望書も随時いただいていますので、例えば、吾妻の交流センターの皆さんからいただいた要望書を受けて説明会をしたりとか、そういうことは随時やっていきたいと思っています。今後も丁寧にやっていきたいと思っていますので、ぜひいろんな機会でご意見をお寄せいただければと思います。

タウンミーティング(2021.11.14 オンライン開催) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
15	流星台に住んでるんですけど、2年前くらいから賃貸とか家とゾゾベースとかもできたりして、車がものすごく増えてて、大通りに出るための道が狭くて細くてうねったりしていて、すごく危ないなと思うところがありました。妻木金田線と、上野花室線は県なのかなと思うんですけど、その道の計画って今どんな感じなのかなと思いまして、その辺を教えてくださいなと思って参加しました。	市内の道路で一番大きなテーマとなってるのが妻木金田線でして、概要をお話しすると、妻木金田線は大体全部で1.5kmぐらいあるんですけども、そのうちの650メートルぐらいはもう終わっています。ただ、今から20年ぐらい前に計画を決定するとき、反対運動があって、これまでも区長さんたちといろいろ話をしてるんですが、基本的にはあんまり変わってないところが現状です。ただ一方で、世代が変わってきたりして、最近は作んなくちゃいけないよねと思ってくださる方も今増えてきていますので、実は1週間ぐらい前から、妻木の皆さんと意見交換会をやって、これからもっと皆さんの声も聞きながら地権者と具体的な話もしてくれよなんていうお声もいただいたりしました。反対してる方もいらっしゃるんですけども、当然地域としての動きですので、直接いろんな話をしながらこれから進めなくちゃいけないと思っています。 おっしゃるように上野花室線は県なんですけど、県がどんな話をしてるかという、妻木金田線を整備するまで上野花室線は整備しないよという論理でちょっと止まっていますが、県に対してはそれはそれで進めて欲しいということをお願いをしていますので、何とかしたいと思います。 いずれにせよ、妻木金田線は市の流星台や中根金田台の皆さんだけでなく市全体としても必要な道路だと思っていますので、ここは一生懸命担当が地域に入りながら話をしていますし、私もいろんなお声を伺っていますので、何とか頑張りたいと思っています。

タウンミーティング(2021.11.14 オンライン開催) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
16	①つくばセンター広場にエスカレーターは要りません。既存の隣にある15人が乗れるエレベーターで明らかに十分です。先ほどは市民窓口へのスムーズな動線を確保したいとのことでしたが、動線はスムーズではないし、15人乗りのエレベーターの方が動線はスムーズです。輸送能力も全く問題ありません。仮に1日300人の市民窓口をする方がいても、15人乗りのエレベーターで十分なのはあまりにも明らかだと思います。なぜ、全く不要なものに多額の市税を使って設置するのか、磯崎新さんの意向にも反する可能性があるのに、なぜこんな馬鹿なことを強行するのか。その理由をぜひお聞かせください。 ②15人乗りのエレベーターのそばにエスカレーターを作る意味を聞いています。お願いします。 ③エレベーターで十分です。人流という意味でも窓口へはUターンするような複雑な人流になっていて、全く説明になっていないと思います。動いて止まると言いますが、商業施設とか、公共交通機関への入口だったらエスカレーターは当然利用価値があると思いますが、センター広場はそういう場所ではありません。 なぜデザインを大切にするといいながら、全く不要なものを作るのか、その説明について伺っています。答えは同じだと思うので構いませんが、とにかく全く理不尽であると考える人がかなり多数いるということだけはご理解いただきたいです。	①先ほどと同じお答えになってしまいますので、ある程度割愛しますが、お話をしたとおりたくさんご意見を伺っていますので、その中でいろんな形で最終的な設計に反映したいと思っています。磯崎先生にはもちろんご相談はしていますが、意匠を守るという部分をどういうふうにか、コストパフォーマンスどうなんだということも含めて、いろんなご意見をたくさんの方でいただいて、最終的な案に反映させていきたいというふうに思っていますので、ぜひ今後も随時、そういうお声をいただければと思っています。 ②エスカレーターとエレベーターって、多少利用の仕方が違うと思っていて、常に流れの中で動いているものと乗って降りて止まるというようなものがありますので、その流れを人流という意味では、ちょっと位置付けが少し違うかなということも思っています。 ③市民窓口は公共施設ですので、そういう話をしてるんですが、市民窓口もまた別の場所にというご意見も従来からいただいていますので、そういうことも含めて、ご意見としてもよく承りましたし、いろいろなご意見を総合的に判断して、最終的に市の責任で進めていきたいと思っています。
17	初めて参加させていただいたんですけど、とても面白く、今回これでオンラインによるこういったミーティングを終わりにするのではなく、ぜひ毎回続けていって欲しいと思いましたので手を挙げました。	オンラインをやることも価値はあると思いますので、カメラ回すとわかるんですけど、準備がなかなか大変なことになってはいるんですが、職員がうなずいてくれるので、ぜひ何らかの形で継続はしたいと思っています。